

調整池の水位を標高-1.0mに管理することで、背後地の排水が改善された。

1. 諫早湾の潮位は概ね1日2回干満を繰り返し、大潮の満潮時の平均は標高+2.5m、干潮時は標高-2.8mと、潮位差が大きく、最大では約6mにもおよぶ大きな変動が見られる。
2. 諫早湾干拓事業により潮受堤防で締切られ、潮位の変動にかかわらず、調整池の水位を平均海水面から1m低く（標高-1.0m）管理できるようになった。
3. これにより、最低標高が約-0.8mの低平地である背後地から、常時排水ができるようになった。

図-1 諫早湾の潮位変動（大潮時）

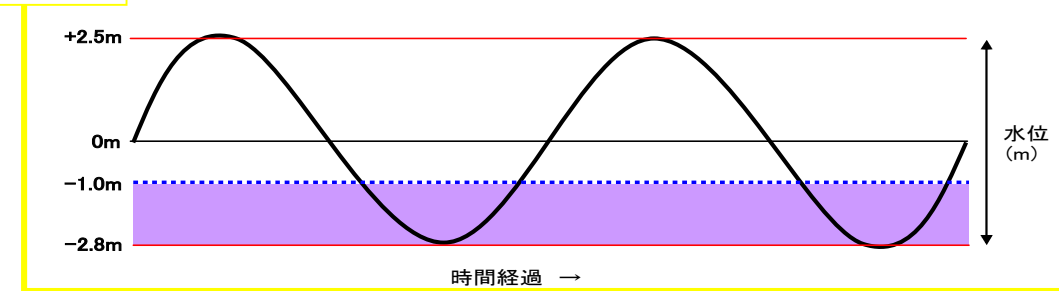


図-2 調整池の水位管理

